

海外にも「花粉症」はあるの？

自然環境や生活の変化により発症例が増加した「花粉症」。特に日本では国民病とも言われていますが、海外でも花粉症は増加しています。

日本は2～4月頃にスギ花粉症が多く、アメリカでは8～10月頃にブタクサ花粉症（30～120cm程度のキク科の草）が、またヨーロッパでは5～7月にイネ科花粉症（イネ科の様々な雑草）が多く、これらは「3大花粉症」と言われています。

世界的に見ても、対策は主に発生源を取り除く「伐採」が中心ですが、

最近はその手段を模索・検討する動きが広がりつつあります。

日本では「花粉の少ないスギやヒノキの品種開発や、アレルギー疾患の発症解明を目指す生命医学研究の推進」などが始まっています※。



※参考：環境省「花粉症環境保健マニュアル2022」